

スーパーグローバルハイスクール（千葉県立佐倉高等学校）

令和元年度第1回運営指導協議会記録(抜粋)

- 1 日 時 令和元年7月12日（水）午後2時～午後4時
(11:40～12:30 第1学年「総合的な探究の時間」を視察)
- 2 場 所 千葉県立佐倉高等学校 地域交流施設 研修室
- 3 出席者
 - (1) 千葉県立佐倉高等学校SGH運営指導協議員
片岡 寛（一橋大学名誉教授）
阿古 智子（東京大学大学院総合文化研究科・教養学部准教授）
岡田 民雄（日本ルツボ株式会社社友（前会長））
藤井 剛（明治大学文学部特任教授）
足立 欣一（千葉大学高大接続センター高大連携室特任教授）
 - (2) 千葉県教育委員会
小西 一央（教育振興部学習指導課指導主事）
 - (3) 千葉県立佐倉高等学校（10名）
上市 善章（校長），本常 栄治（教頭），泉水 清和（教頭）
高木 幸男（事務主幹），高柳 良訓（教諭，SGH主任）
戸村 玲子（教諭，国際交流部長），村瀬 恵正（教諭，探究学習部長），
尾竹 陽子（講師，国際交流部），夏目 久仁俊（教諭，教務副主任）
金井 威道（教諭，1学年SGH担当）
- 4 運営指導協議会
 - (1) 開会のことば（本常教頭）
 - (2) 千葉県教育委員会挨拶（教育庁教育振興部学習指導課 小西指導主事）
 - (3) 佐倉高等学校長挨拶（上市校長）
 - (4) 運営指導協議員及び佐倉高等学校担当者紹介
 - (5) 会長，副会長選出（会長，片岡協議員，副会長，岡田協議員）
 - (6) 会長，副会長挨拶
 - (7) 協議
 - ア 令和元年度事業計画案について
 - (ア) 概要説明
 - a 全体計画・課題等について（本常教頭）
 - b 進捗報告1＜総合的な探究の時間・GLアクティブ等＞（高柳教諭）
 - c 進捗報告2＜海外派遣等＞（戸村教諭）

(イ) 運営指導協議員の質疑及び指導助言（主な内容）

- ・ 社会科学では、社会的問題を設定し、調査し、それに対して暫定的であっても説得力のある答えを出せることが大切だ。そのベースが高校でできてれば、大学教育ひいては日本の教育が変わっていくのではないか。そういった意味でも SGH が普及していくとよい。
- ・ 午前中の探究学習では生徒が主体的に活動していてよかった。地域に根差したテーマを研究している生徒が多く、興味を持った。SGH を通して佐倉高校生が世界のひのき舞台上で活躍することを期待している。
- ・ 午前中の探究学習で生徒に違う視点でヒントを与えると、新たなアイデアが浮かんでいき、議論が活発になった。「学びマップ」の話があったが、こういったアイデアが出たからこの調査をした、というようなプロセスが明確になるのは素晴らしいと思う。
- ・ 佐倉高校の SGH の研究のレベルは年々上がっている。先行研究の調べ方など方法論で躓いている生徒もいるので、専門家と話せる機会を設けるなど、教員は生徒をもう少し後押ししてほしい。そうすることで、生徒はさらに飛躍していくだろう。
- ・ 1、2 年生で継続していた探究活動が、3 年生になると受験のためにストップしてしまう現状がある。大学入試も含めて制度面から高校と大学の接続を見直していかなければならない。
- ・ 佐倉高校では SSH・SGH を通して、探究活動のプロセスが確立しているが、多くの学校では、蓄積がなく苦勞している。そういった現状を理解してほしい。
- ・ 6 人グループは多いと思っていた。4 人グループは適切。教員側の経験値を上げることも大切。学年職員を含めて学年全体で講義をしたり、各教科に仕事を分担したりすることはよいことだ。一方でやはり課題の設定の仕方、継承の仕方が今後の課題だろう。テーマの継承は、学び方研究方法の継承でもある。そこがうまくいけばステップアップできる。
- ・ 設定した研究テーマについて、日本の事情だけでなく他国の事情を見るとよい。同じテーマでも他国のものをみることで新たな視点が得られる。海外派遣前に自分のテーマを相手国に伝えてやり取りをしておけば、相手国の事情を教えてもらえたり、派遣時に関連施設を見学できたりするかもしれない。

(8) 諸連絡（小西指導主事）

今回は、令和元年 11 月 26 日（火）午後 2 時から。

(9) 閉会のことば（本常教頭）

スーパーグローバルハイスクール（千葉県立佐倉高等学校）

令和元年度第2回運営指導協議会記録(抜粋)

- 1 日 時 令和元年11月26日（火）午後2時～午後4時30分
- 2 場 所 千葉県立佐倉高等学校 地域交流施設 研修室
- 3 出席者
 - (1) 千葉県立佐倉高等学校SGH運営指導協議員
片岡 寛（一橋大学名誉教授）
阿古 智子（東京大学大学院総合文化研究科・教養学部准教授）…ご欠席
岡田 民雄（日本ルツボ株式会社社友（前会長））
藤井 剛（明治大学文学部特任教授）
足立 欣一（千葉大学高大接続センター高大連携室特任教授）
 - (2) 千葉県教育委員会
小西 一央（教育振興部学習指導課指導主事）
 - (3) 千葉県立佐倉高等学校（11名）
上市 善章（校長），本常 栄治（教頭），泉水 清和（教頭）
高木 幸男（事務主幹），高柳 良訓（教諭，SGH主任），
戸村 玲子（教諭，国際交流部長），村瀬 恵正（教諭，探究学習部長），
奥村 武広（教諭，第1学年主任），鈴木 速人（教諭 第2学年主任）
尾竹 陽子（教諭，国際交流部），金井 威道（教諭，SGH1学年担当）
- 4 運営指導協議会
 - (1) 開会のことば（本常教頭）
 - (2) 千葉県教育委員会挨拶（教育振興部学習指導課 小西指導主事）
 - (3) 佐倉高等学校長挨拶（上市校長）
 - (4) 第1学年「GL探究（小さな発表会）」視察
 - (5) 運営指導協議会会長挨拶（片岡会長）
 - (6) 協議（進行 片岡会長）
 - ア 令和元年度事業進捗状況について
 - a 概要説明（本常教頭）
 - b GLアクティブ・GL探究連携事業の報告（高柳教諭）
 - c 海外・国内研修報告（戸村教諭）

イ 運営指導協議員の指導助言等（主な内容）

- 今日の「小さな発表会」では同じ GL クラスでも F 組は活発な雰囲気でありながら、G 組は他のクラスと同様に淡々と発表している印象を受けた。スマートフォンも活用して、発表内容を班内で共有していたり、データを提示したり、場に応じた発表ができていた。「小さな発表会」を通して互いに教え合い、それを自分の班に戻ってフィードバックできる。次の時間、自分の班に戻ったときどれだけテーマを深められるかが大事だ。
- SGH を発展させようとする工夫、意図が感じられる。ただ、1 年生というところで荒い部分があった。教員が教えなければいけない部分もある。プレゼンテーションに関してはうまく話せる生徒もいる反面、漫然と話しているだけの生徒もいた。プレゼンテーションは 1 分 400 字程度だという目安から教えるべき。時間が余ったり足りなかったり生徒がいた。資料を見せながら発表している生徒もいたが、半分くらいの生徒は言葉で伝えるだけで、発表を聞いている側が受け止め切れなかった。発表を聞いているときにメモを取っていない生徒も多い。また、人間関係が築けていなくては、突っ込んだ厳しいアドバイスはできない。一度そういったアドバイスをさせる経験をしたほうがよい。アドバイスではなくて感想になっている生徒もいた。目的や方法が適切かなどアドバイスする際の視点を事前に教えても良かった。逆に発表者も聞いたアドバイスをメモしていなかった。
- 机を動かさずに立って活動しているクラスが 1 つあり、そのほうが活発でにぎやかな印象を受けた。質問してみたかったが、常に誰かが説明していたのでタイミングがなかった。社会に出た時、得た知識をどう相手に伝えるかということが重要になってくる。学生は知識を習得するだけという印象があったが、それを他者に伝える技術を高校生のうちから身に着けることも重要だと思った。
- 今までの 1 年生より、やるべきことを理解した上でやる気を持って取り組んでいるように見えた。ただ、生徒にどんなテーマで研究しているのか聞いてみたが、社会科学の研究として問題意識を明確にしたものにはなっておらず、興味先行のテーマ名となっている。問題意識を持ってテーマを設定するべきだが、1 年生の時点でそこまで求めることは難しいとも思う。生徒の自主性に任せるべきなのか、事前に教員がベースを教えておくべきなのか、また、1 年生にとってのベースとは何なのかしっかり示しておく必要があるかもしれない。また、今回見たのは 1 年生の「小さな発表会」だが、2 年生が同じレベルだとよくない。2 年生の「小さな発表会」の様子もビデオなどで見てみたい。2 年生になってどの程度の活動ができているのかによって、指導の必要性の有無や方針も見えてくるのではないかな。

- ・ブリティッシュ・ヒルズの活動の効果が今日の「小さな発表会」に現れていたのではないかな。年々レベルが上がっていると感じる。全ての研修で問題意識を持って高めようとしているので、それを継続してほしい。
- ・佐倉小学校で授業をしたとのことだが、佐倉高校がやっていることを地域に知らせることも大事だ。また、そうすることで自分の課題研究が地域に還元されているという実感も得られる。すべてのテーマが小中学生に馴染むものではないだろうが、良いテーマがあったら送り出してみるとよいのではないだろうか。
- ・国内の留学生を活用すべき。多くの留学生とコンタクトを取ってほしい。留学生にとっても良い勉強の場になるはず。また、アメリカにも目を向けてほしい。現在の世界のリーダーはアメリカだ。そして将来を考えると、中国が GDP でアメリカを抜くことも考えられる。戦争のない現代では経済力がものを言う。中国の経済圏に関わる佐倉高校生が出てくるとよい。
- ・あと 1 年半協議会がある。来年度は仕上げの年。それ以降、どの教員が担当となっても活動できるようにしてほしい。国際交流で一番重要なことは自分の国や地域を知り、自分というものを固めることだ。最初にヨーロッパに行ったとき、浮世絵展に呼ばれたことがあったが、展示されている浮世絵のうち、それなりに説明をできたのが 3 分の 1 ほどで恥ずかしい思いをした。また、その国では博物館が無料で、親が子供を連れて 1 つの展示スペースを 1 日かけて説明していた。自分の国について説明できる素養はそういったところからで培われるのだろうし、それが国際交流の上で重要になってくる。

(8) 諸連絡 (小西指導主事)

次回は、令和 2 年 3 月 19 日 (木)

(9) 閉会のことば (本常教頭)